

## 6月27日（木） 公民館講座「だんだん日本語」に参加しました

今年度の時事問題セミナーのテーマは「持続可能な地域社会に向けて」です。

前日の26はその第2回で、甲斐かおりさんの講演とパネルディスカッションがありました。

少子高齢化、人口減少社会の傾向を背景に「移住者」を呼び込む地方自治体の取り組みを紹介。

都市住民の子育て世代を中心に「移住者」を呼び込み、自治体の存続に寄与する層を確保したいという切実な願いがある。成果があがっている市町村は、豊丘村より人口規模の小さいケースが多く、『もう！やるっきゃない！』という切実さが伝わってくる。

### 豊丘村のスタンスはどうだろうか？

既に移住された方が、住み続けたいと思える村だろうか？困っていることはないのか？

製造業従事者には外国人の方も多し。自然と村内の外国人居住者も増えている。

その方たちも、「移住者」。村に住み、これから先も住み続けてもらうことも大切なこと。

その一つの方策でもあり、数年前から村内外国人向けに実施している公民館日本語サポート講座。

今回のテーマは『異文化を知ろう！』

中国出身の方のお話・・・興味津々で出かけた私。

オープニングで、今回の話題提供者でもある黒竜江省出身のこいしみね小石峰さん手作りのミニ肉まん（出来たて！）を頂く。中華料理は本場の方の手作りに限る！そして、その心遣いが暖かい。

全体の進行は講師で日本語教師である小園の大澤さん

日本人サポーターのスタッフは4名。堀越のKさん、北市場のMさん、役場の若い女性職員2名  
外国籍の参加者は、中国人3名、ベトナム人1名、ニュージーランド人1名、イギリス人1名。

①まず、全員の自己紹介。名前と出身地、呼び名を紹介。連想ゲームを一巡して、場が和む。

②続いて、今回の話題提供者のかすみ小石峰霞さんが、中国からこちらに嫁いで今に至る流れを簡単に日本語で話してくれる。（かなり準備をされ、笑顔で上手に話されていた）

小石峰さんは、白い服、靴が好きな女の子でした。刺繍が好きで、カーディガンやテーブルクロスに刺繍をした。

③小石峰さんのお話をきっかけとして、今度はグループに分かれる。自分の子ども時代のネタ。だれもが思い起こして語れる。一人ずつ、自分がどんな子供だったかを日本語で書いてみる。それを並べて、どんな子供時代が誰かをあてる。

④小石峰さんが、中国の遊びを紹介。

その1は、日本でも昔よくやった、ハンカチ落とし。

ニュージーランドから来られた男性は趣味がランニングだけあって、ハンカチを手にしてからが速い！大いに盛り上がる。

その2は、片足を自分の手で抱え、ケンケンしながら1対1でぶつかり合い。転ぶか、抱えた足を下した方が負け。

二つのチームに分かれ、勝者が多いチームの勝ち。膝関節の柔軟性や脚力が問われる。若い者勝ちでした。

### ⑤3人の中国の方に中国語を習う。

初めに講師の大澤先生に中国語の母音の基礎を導入して頂いてから、

『晚上好（こんばんは）』

『我是〇〇（私は〇〇です）』

『（宜しくお願いします。）』を、発音と口の開きをまねながら実践！

初めての中国語。外国語習得の難しさを感じました。

帰り道、日本人サポートスタッフの言葉：『中国の方が日本語を学ぶのも大変だと感じた』  
全く、同感。

### 6月30日

大鹿村のリニアトンネル工事の現場視察会で、中国からの留学生と出会った。

東京工業大学に留学中の彼の名は 遅 凱元（ち がいけん）さん。

習得した日本語で、私の名前は・・・と、積極的に話しかけてくれた。

そこで、3日前に小石峰さんに教えていただいた中国語で私も自己紹介してみた。

『我是 壬生 真由美』 片言の中国語を笑顔で受け止めてくれた。

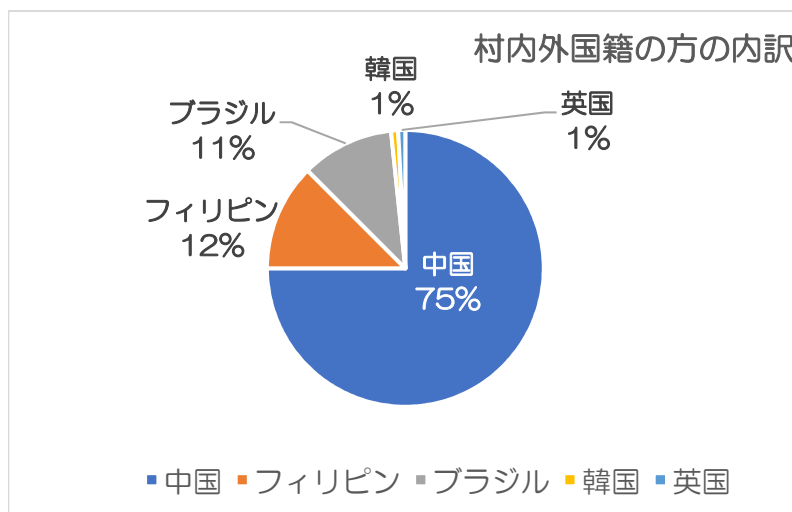
★役場で豊丘村内に住民登録している外国人の状況をお聞きした。

全体数は

H29/4/1	H30/4/1	H31/4/1
109人	118人	120人

今年度の内訳は

中国	フィリピン	ブラジル	韓国	英国
90人	15人	13人	1人	1人



実際は、村内事業所で就労されている外国人を含めると、豊丘村で生活している外国籍の方はもっと多いと思われます。

移住促進策は、様々な角度から。移住して感じる困難さを共有する。少しでも暮らしやすくする工夫を皆で考える。小さなことの積み重ねで住みやすいと実感する村になると思う。

『だんだんにほんご』は どなたでも参加できます。次回は7/25（木）19：00～